

12 富野スタンダードについて（年度当初の確認事項）

「富野スタンダード」の確立に向けた小中共通実践事項

～学力先進地視察研修（秋田県かづのし鹿角市・こさかちよう小坂町）を受けての授業改革～

(1) 富野スタンダード「授業の心得」について

1) 立腰指導の徹底

2) 共通の授業マネジメント（指導案の記載事項）における時間配分（例）について

- | |
|--|
| ・小学校…つかむ（3分）→見通す（2分）→考える（20分）→深める（10分）→まとめる（10分） |
| ・中学校…つかむ（5分）→見通す（3分）→考える（12分）→深める（20分）→まとめる（10分） |

3) 子どもたちの発言から課題を設定し、めあての提示につなげる。

4) 教師の発問で子どもが発言できない場合、必ず子ども同士で話し合いをさせる（教師は我慢♪）

5) 子どもがじっくり考えたり、書いたりする時間（一人学び）を確保する。

6) 子ども同士の学び合い（ペアワーク・グループワーク）の時間を確保する。

7) 発表（発言）の仕方について、下記の事項を徹底して行う。

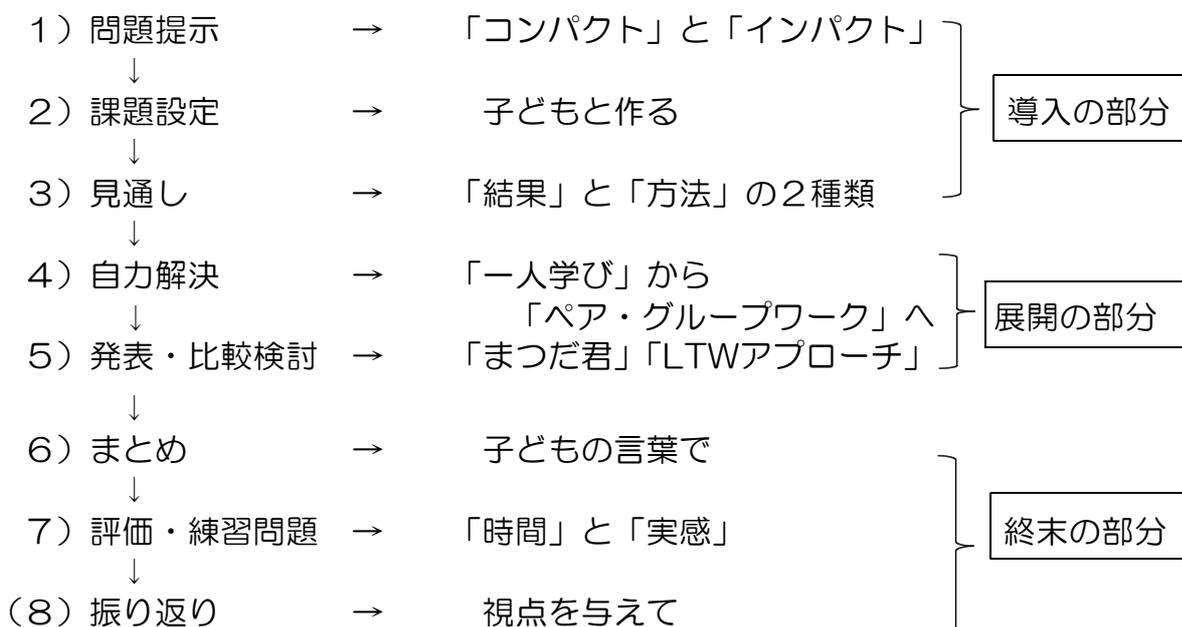
①できるだけノートやメモを見ないで発表する。

②もしノートやメモを見るなら、リード アンド ルックアップ Read and Look up を行う。

*Read and Look upとは…ノートを見ながら発表するが、時々顔を上げ聞き手を意識しながら発表する方法

8) 指導案（略案）の作成には、単元の目標と全体計画を細かく記載し、本時のねらいは更に具体的に記載して評価につなげる。

(2) 「富野スタンダード」授業の流れ（小：45分 中：50分）の共通実践



★★★ 立腰指導について ★★★

【児童・生徒配布用】

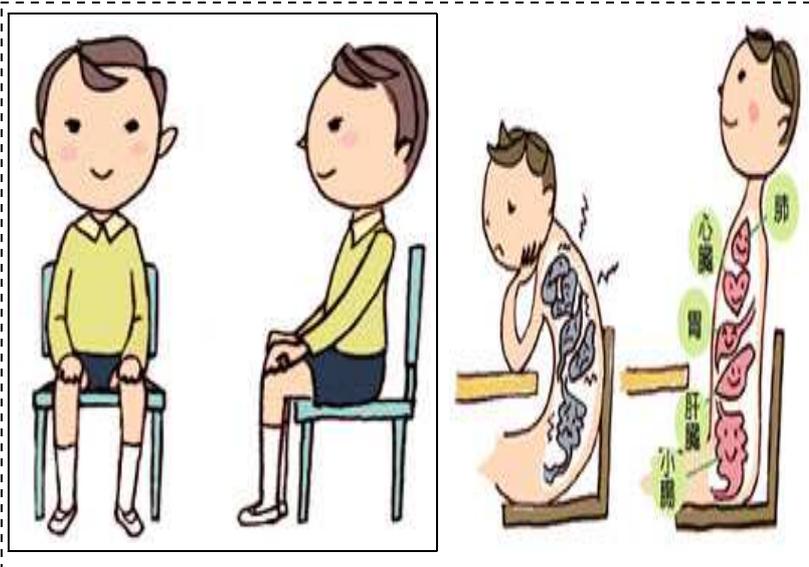
石垣市立富野小中学校

『立腰（りつよう）』について

- 1 「立腰」とは・・・腰骨を立てて背筋を伸ばして座る姿勢のことです。
- 2 「立腰」をすると・・・次のような良いことがあるとされています。

立腰の功德十か条

- ① やる気が起こる
- ② 集中力が出る
- ③ 持続力がつく
- ④ 頭脳が明晰になる
- ⑤ 勉強が楽しくなる
- ⑥ 成績も良くなる
- ⑦ 行動が俊敏になる
- ⑧ バランス感覚が鋭くなる
- ⑨ 内蔵の働きが良くなる
- ⑩ スタイルが良くなる



※腰骨を立てる姿勢とは・・・

- (1) 足の裏を床につけます。
- (2) お尻を後ろに引き、腰骨をぐっと前に出します。
- (3) 肩や胸の力を抜き、下腹に少し力を入れあごを引きます。

3 「立腰」が身につけば・・・

- ①生涯をとおして、健康に過ごせる丈夫な身体づくりにもつながります。
- ②高校や大学などへの入学試験、就職活動など、自分の将来に役立ちます。

4 富野小中学校でも様々な場面で実践します♪

- 場面・・・○朝の会や終わりの会 ○授業 ○各集会 などで行います
- 方法・・・授業などの始めと終わりに30秒間徹底して行います。

①先生の方から（または日直が）「立腰（りつよう）！」と号令をかけます。

②児童生徒の皆さんは、座ったまま、先生から合図があるまで、背筋をピンと伸ばし30秒～1分間黙想しながら、深呼吸をゆっくり行います。（鼻・口、どちらでも良い♪）

※効果…交感神経と副交感神経が働き、自立神経を整え、**気分を落ち着かせます。**
深呼吸をすることで、脳にも酸素がいき、**脳が活性化する準備が整います。**
*マインドフルネス…3秒吸って、2秒息を止め、5秒で吐く♪

③先生（日直）が「立腰なおれ」「これから授業をはじめます。礼」「はじめます」で授業に入ります。

④終わる場合も授業終了30秒～1分前に先生（日直）が「立腰」と号令をかけ終了します。

(3) 「富野スタンダード」の解説

1) 導入ー見通しで考えること

★キーワード① 導入は「コンパクト」と「インパクト」

「コンパクト」・・・導入は5分、長くても10分

※問題提示→課題設定に時間をかけ過ぎないこと！

(評価問題を解いたり、振り返りの時間が不足する原因になる！)

「インパクト」・・・子どもの学習意欲を引き出す(思考のゆさぶり)

※インパクト(ワクワク感、考えてみたい感、何これ感)を与える

- 今まで学んできたことの中に「ずれを生じさせる」
例) 3問中、2問は既習事項、もう1問は新出事項(思考のゆさぶり)
- 見た目では明確に判断できないようにする(異なる予想を生じさせる)
例) 画像やイラストを活用→気づかせる
- 子どもたちの身近にある素材を利用する

★キーワード② 学習課題は子どもと作る!

※子どもと子どもの「疑問」や「困り感」を取り上げて学習課題を作る

- 教師が一方向的に課題(めあて)を設定するのではなく、「子どもとやりとりしながら学習課題を立てたい」

※難しいことではあるが、毎回「今日の学習課題は何かな?」と問い続けることで、子どもに学習課題を作る力が身についていく。

- 具体的な問いかけでゴールまで見通せるようにしたい

★キーワード③ 課題(めあて)設定後の見通しは、「結果」と「方法」の2種類!

※「結果の見通し」とは…(答えがどのくらいになりそうかという見通しのこと)

- ～より小さくなる、だいたい～くらいになる 等

※「方法の見通し」とは…(どうすれば問題が解けるかという見通しのこと)

- 既習事項の～を生かしたら?
- 直方体に分ければよいのでは? 等

※この2つの見通しを意識して、子ども達に考えさせたい!

- しかし、見通しを立てすぎないこと(自力解決につなげる程度で良い)
- 見通しは「課題設定の時」に行われる場合もある。
(見通しから課題が生まれる場合)

2) まとめ一振り返りで考えること

★キーワード④ **まとめは「子どもの言葉」で!**

- ※講義で一番重要なことを言うのは教師!
- ※授業で一番大切なことを言うのは子ども!

■子どもから出た言葉でまとめさせたい
→まとめに繋がる学び合いや教師の発問が重要になってくる!

※発達段階を踏まえながら「教師がまとめる」→「子どもがまとめるに」!

- 方法としては、キーワードの穴埋め、キーワードを示して文章化に
- 子どもによるまとめ方の例
 - ・グループでまとめをする(ミニホワイトボード等を活用)
 - ・全体で共通しているキーワードなどを確認する
 - ・各自でノートにまとめる

★キーワード⑤ **まとめの後の「時間」と「実感」**

※時間 → まとめした後15分あると理想的

■学習の「定着」には「習熟」が不可欠→でも時間がなければ何もできない。

※実感 → まとめを活用で「できる」を実感!

- まとめを生かす(まとめを使って問題を解く)ことで、全員が「わかった」「できた」を実感できる。
- まとめの方法→ペア、グループで説明、フラッシュカードを活用 等

※まとめの後の評価問題(1~2問程度)は、県から出されている問題を活用している。

★キーワード⑥ **振り返りは「視点」を与えて**

※毎時間積み重ねることによって「主体的な学習者」を育てる

※振り返りの視点を明確にして振り返らせる!

■例)「自分の変容」「友だちの発言の良さ」「疑問に思ったこと」 等

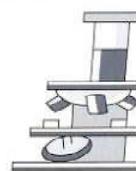
※より良い振り返りを「紹介」したい

■学級全体にその振り返りの良さを広げる。

*小坂小中の振り返りの視点↓

~学習をふり返ろう~ **ふり返りの視点**

- ① 友達の考えから学んだこと
- ② 学習後に変わった自分の考え
- ③ 新しい疑問, 不思議に思ったこと
- ④ これからの学習や生活に生かしたいこと
- ⑤ 生活とのつながりで気づいたこと, 発見したこと



(4) 「富野スタンダード」言語（話し合い）活動の充実について

1) 話し合い活動の充実について ～はじめに～

- 言語活動（話し合い）は全ての教科・領域に必要である。
- キャリア教育にも関連しながら、子ども達の将来を見据えた言語活動の充実を図りたい。

2) 話し合い活動を充実させるために以下①～⑥について確認する

①必要感のある課題・・・「コンパクトでインパクトのある導入を！」

- 短い時間でいかに子どもたちの心をつかみ、課題まで持っていくかが重要です。
- 個人差はあるが、課題までの時間を10分と決めておく。
- インパクトという点では「本物」に勝る物は無いと思います。

*本物を見せる → はてなを引き出す → 子どもの声から… → 必要感のある課題に結び
*本物を準備できない場合は、写真やイラストなどで視覚に訴えるものを準備

②自力解決の時間・・・「必ず全員に自分の考えを書かせる！」

- 「一人学びの時間」と子どもたちには説明する。
- 自分の考えを書くということが、話し合い活動の前提であると捉える。
- まずは「必ず全員に書かせる」という意気込みを持つ。
- 子ども達はやり方を教えれば、必ず自分の考えを書いてくれると信じて徹底して取り組む。
- 「一人学び」をする前に2つのこと説明すること。

*1つめは課題を解決するために何をするか。
*2つめはどのようにするか。

- 確認した2点については、子ども達が何度も振り返って確認できるように、「一人学び」の間、ずっと黒板に掲示しておきます。→授業のユニバーサルデザインです♪
- もう一つ「一人学び」で大切なことは、「時間を決める」ことです。
- 何分でできるかを子どもたちとのやり取りの中で決め、決めた時間は絶対に延長しません。

※全国学力調査等で無答を減らすためには、授業でも時間について厳しくしていく必要があるので時間厳守を徹底する。

③その気にさせる机間指導♪・・・「机間指導で学び合いは決まる！」

- 「一人学び」で行う机間指導は大切。
- 机間指導を大切に行えば「一人学び」で自分の考えを書くことができる。
- 30人ぐらいの学級だと5分で1周を目安にする。
- 「一人学び」が始まると、赤ペンを持って机間指導を行う。
- 少しでも書けていたら、「ここまで書けたね」「いいこと書いてあるね」など、褒め言葉のシャワーを浴びせる。
- まったく書けない子には、気になる言葉を問い、そこから広げるようにアドバイスをする。
- 逆にすぐに課題解決をしている子どもには、もう1つ書くように指示し「一人学び」終了後には、たくさん書いた子どもを忘れずに賞賛する。

- 最も重要なことは、机間指導の際、次の学び合いを構築すること。

*最初一人一人と対話することで精一杯だと思うが、学び合いを構築するポイントは「3人の子どもを見つけること」である。
*3人の子どもとは「最初に指名する子ども」「深める場面で指名する子ども」「ゆさぶりの場面で指名する子ども」である。

- 学び合いが深まらなかつたり、軌道修正が必要な時に、指導者が説明を加えるのではなく子どもの発言から深めていくことで、子どもたちを主役にした深め合う学び合いができる。

④話し合いを深める発問・・・「教師の出番を心得る！」

- いよいよ学び合いの時間です。「出し合い」と「学び合い」を別にして考える。
- 「出し合い」の時、教師は見守る。
- 「学び合い」の時、教師のゆさぶり発問等で深める。

※子どもを主役にするためには、教師は自分の出番を知る必要がある。

- 「出し合い」の際は、子どもたちに次のように語りかける。

*「5分間は皆さんの時間です。みんなだけで話し合ってください。」と宣言する。

- 子どもたちに任せる時に大事なことが2つある。

- *1つめは、指導者は板書に徹します。口出しをしません。
- *2つめは、子どもだけで話し合いができるように、事前に「スキル」を教えておくこと。
- *3人ほど同じような考えが続いたら「そろそろ話題を変えてもいいですか」とか時間を見ながら4分を過ぎたあたりには「そろそろまとめていきませんか」などの話形を教えるということです。
- *出し合い → 学び合い → 最適解の順序を意識する。

- そしてその際、指導者は板書に集中します。

- 学び合いで子どもの考えを「ゆさぶる」ために分類して板書する。

*例えば「5年わらぐつの中の神様」で「神様って何だろう」という意見を2つに分ける。

*そして2つに分類したものに、子ども達にタイトルを付けさせる。

*例) 1つは「目に見えるもの」、2つめは「目に見えないもの」と名付ける。

*ここで「ゆさぶり」ます。

例) ゆさぶり発問…「題名がわらぐつの中の神様だから、神様がわらぐつだったら、わらぐつの中のわらぐつでいいの？」と聴きます。

*そうすることで、子どもたちはもう一度本文にもどり、話し合いながら出された意見を消去したり、まとめたりして、その学級の「最適解」にたどり着きます。

- 毎時間の指導案に「主発問」と「ゆさぶり発問」を明記する。

*毎時間この2つの発問を考えるのに苦しみかもしれないが、子ども達がどんな意見をするか、ワクワクする時間でもあるので、子どもたちのために頑張ること。

⑤効果的な振り返り・・・「その時間に身に付いた力を子どもが実感する！」

- 「子どもはその時間に身に付いた力が、よく分からないから嫌いな子どもが多い」ということを認識すること。

- 確かに昨日と今日で何が違ったのかはっきりしない教科(国語)こそ、改善するために下記の工夫が必要である。

*工夫1・・・振り返りの際、振り返りの観点を示しました。

(身につけた力で振り返りを書くということです)

*工夫2・・・空欄にする方法。それには「更に学びたいこと」や「今日の自分や友だちの成長を自由に記入」させます。

(自分で自由に工夫して書ける部分もある程度必要だと考えます)

*工夫3・・・「今日の力」を指導者から示し「今日はこんな力がついたんだよ」と賞賛する。

⑥話し合い活動を充実させるために本時を支えるもの…「子どもの気持ちになって考える！」

■何より大切なことは「子どもの気持ちになって考えること」である。

- *先生だけが話している授業、ずっと同じことを繰り返す授業では、子どもたちも飽きてくる。
- *自分の授業評価をする時に、子どもの気持ちになって授業を見直すと見えてくるものがたくさんあるはず・・・。

■国語が好きな子どもを育てる1つが「単元を貫く言語活動」だと思います。

- *この単元の中で身につけさせたい力を教師がつかんでいるだけでなく、子どもたちにも話し、子ども達といっしょ単元のゴールを決めます。
- *言語活動は少しでも日常生活や社会生活につながっていると感じた時、子ども達のモチベーションは上がります。
- *目的意識、相手意識が子ども達に学ぶ実感を持たせていると思います。

■使える言葉を増やす活動について説明します

- *教科書の後ろに掲載されている言葉集を拡大して教室に掲示
- *「言葉の宝箱」として語彙を増やしていく
- *語彙を増やすには環境を整えることも大切です♪

■「子ども達の気持ちを大切にすること、子どもたちを主役にする事」…それに尽きる♪

○秋田県小坂町立小坂小・中学校で、特に印象に残った掲示物

学級向上プロジェクト
(二大一後活動)

【学級向上プロジェクト】		社 会	木村優真・田中俊輔
国 語	柴田さくら・田島舞菜	理 科	尾樽部秀翔・銭盛竜
数 学	高橋未来・目時成実	美 術	細越晃太・宮崎詩織
音 楽	木村佳乃・工藤南々羽	保 体	富山莉央・目時璃久
技 術	亀田憂斗・高橋慶彦	道 特 活	栗山草平・高嶋海
英 語	菅原横・安保朔良	運 搬	佐藤すみれ・花岡真衣
教科連絡板	青山彩花・中村思葉		

朝の会

- 朝のあいさつ
- 健康観察
- 今日の目標
- 係・委員会から
- 1分間スピーチ
- 先生から
- 終わりの言葉

帰りの会

- 1 始めの言葉・黙想
- 2 教科連絡
- 3 係・委員会から
- 4 生活ノート記入(2分)
- 5 今日帰りのふりかえり
(月:班長 火:学習長 水:提出長
木:清掃長 金:給食長)
- 6 先生から
- 7 帰りのあいさつ

【生活向上プロジェクト】

係	活 動 仕 事	内 容	メ ン バ ー
配 布	掃りの会	お便りを配布します。	木村佳乃・高橋未来・宮崎詩織
電 灯	電灯の点灯消灯・窓の開閉	をします。	尾樽部秀翔・田中俊輔
給 食	先生の給食を配膳したり、給食関係の仕事を手伝います。		安保朔良・柴田さくら
黒 板	毎時間黒板を消しチョーク補充	します。	亀田憂斗・高嶋海・田島舞菜
掲 示	掲示物を貼ったりはがしたり	します。	銭盛竜・工藤南々羽
新 聞 日 誌	新聞と日誌を毎朝もってきます。		木村優真・目時璃久
整 理 整 頓	教室後方の棚を整理整頓	します。	栗山草平・菅原横
日 程 確 認	毎朝日程を確認し、連絡板に書	きます。	青山彩花・目時成実
何 だ も	突発的な仕事や机椅子の整理整頓など、何でもこな	します。	富山莉央・細越晃太
代 議 員	学校・学級の向上に努めます。		高橋慶彦・花岡真衣
書 記	代議員を補佐し学級の向上に努めます。		佐藤すみれ・中村思葉

※上記は最低限の責任です。気付いた人が進んで呼び掛けたり、手伝ったりしてください。社会はそういう「+α ちょいボラ」精神が支えています。

(5) 略案の書き方・・・「富野スタンダード」指導案（略案A4サイズ1枚）

※指導主事を招聘して行う研究授業は、八重山教育事務所指定の指導案を活用します♪

■おもて面（例）

第〇学年 〇〇科学習指導案

平成 27 年 月 日（ ）

場 所

指導者

- 1 単元名
- 2 単元の目標
 - ①
 - ②
- 3 単元の全体計画（総時間数〇時間 本日 〇/〇）

次	時	学習課題・めあてと主な学習活動	形態	主な評価基準
一	1			
	2			
二	3 本 時			

■うら面（例）

- 4 本時の学習（〇/〇）

（1）本時のねらい

（2）本時の展開

段階	学習活動	形態	教師の支援と評価	資料
つかむ				
見通す				
考える 深める				
まとめる				

(6) 参考資料・・・「探究型授業・アクティブラーニング」

1) テーマ 「主体的・協働的な学びの視点で秋田の探究型授業を検証する」
～ 教育専門監の実践を通して ～

コーディネータ	秋田大学教育文化学部 教授	阿 部 昇 氏
パネリスト	文部科学省初等中等教育局視学官兼教科調査官	田 村 学 氏
	実践発表者	矢田部 瑞穂 氏
	実践発表者	中 田 康 広 氏

2) 文部科学省初等中等教育局視学官兼教科調査官 田村 学 氏のお話

①21世紀の社会について

■社会の変化

*近い将来10人中9人は、今と違う仕事をしている (米: ラリーページ)

■地域コミュニティ

*20年以内に、今の仕事の47%は機械が行う (英: マイケル・オズボーン)

■知識基盤社会

*2011年入学児童の就職先の65%が、現在ない職業 (米: キャシー・デビットソン)

②人材育成面での企業の期待と大学・大学院の取り組みについて…「ずれ」「ギャップ」がある

■企業側の期待

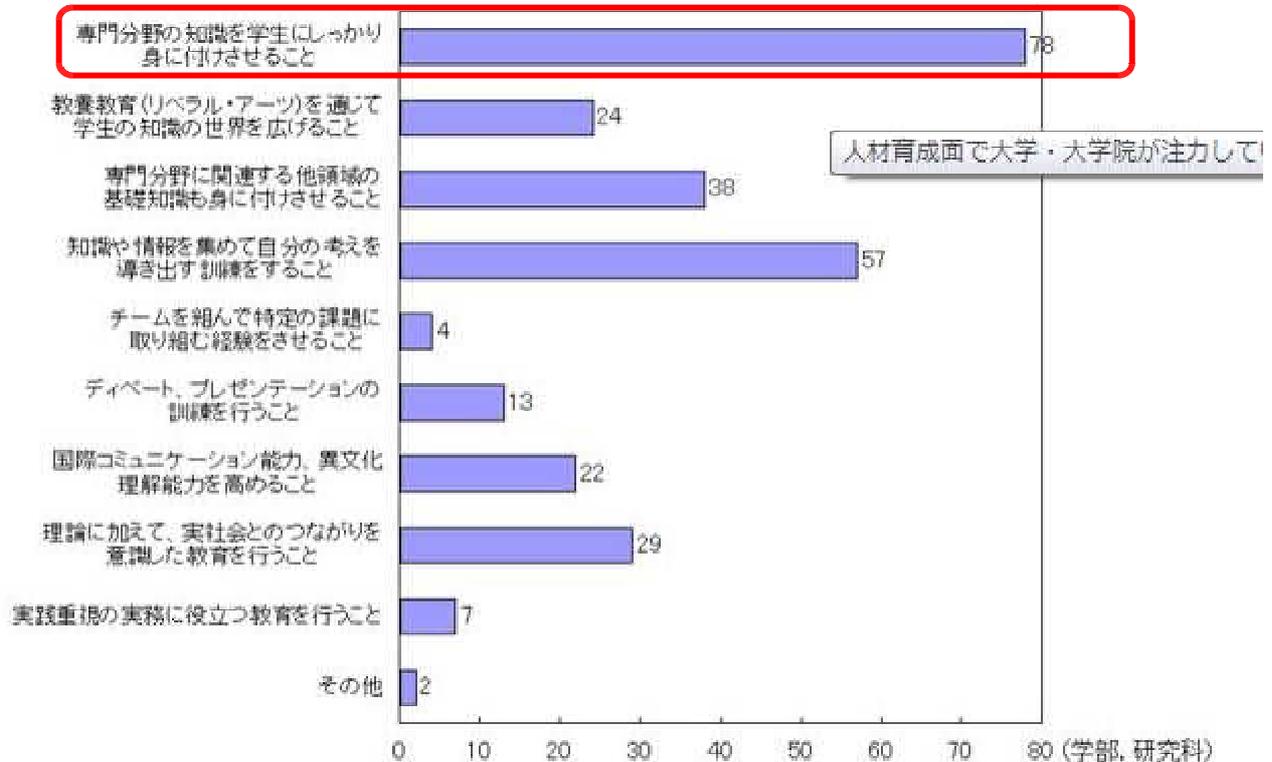
○人材育成の面での大学・大学院への期待(文系)

(調査対象:日本経済団体連合会会員企業(1,314社・三つまで複数回答可能) 回答数:684社)



○人材育成面で大学・大学院が注力している点(文系)

(調査対象:全国の大学(20大学・三つまで複数回答可能) 回答数:48学部、49研究科)



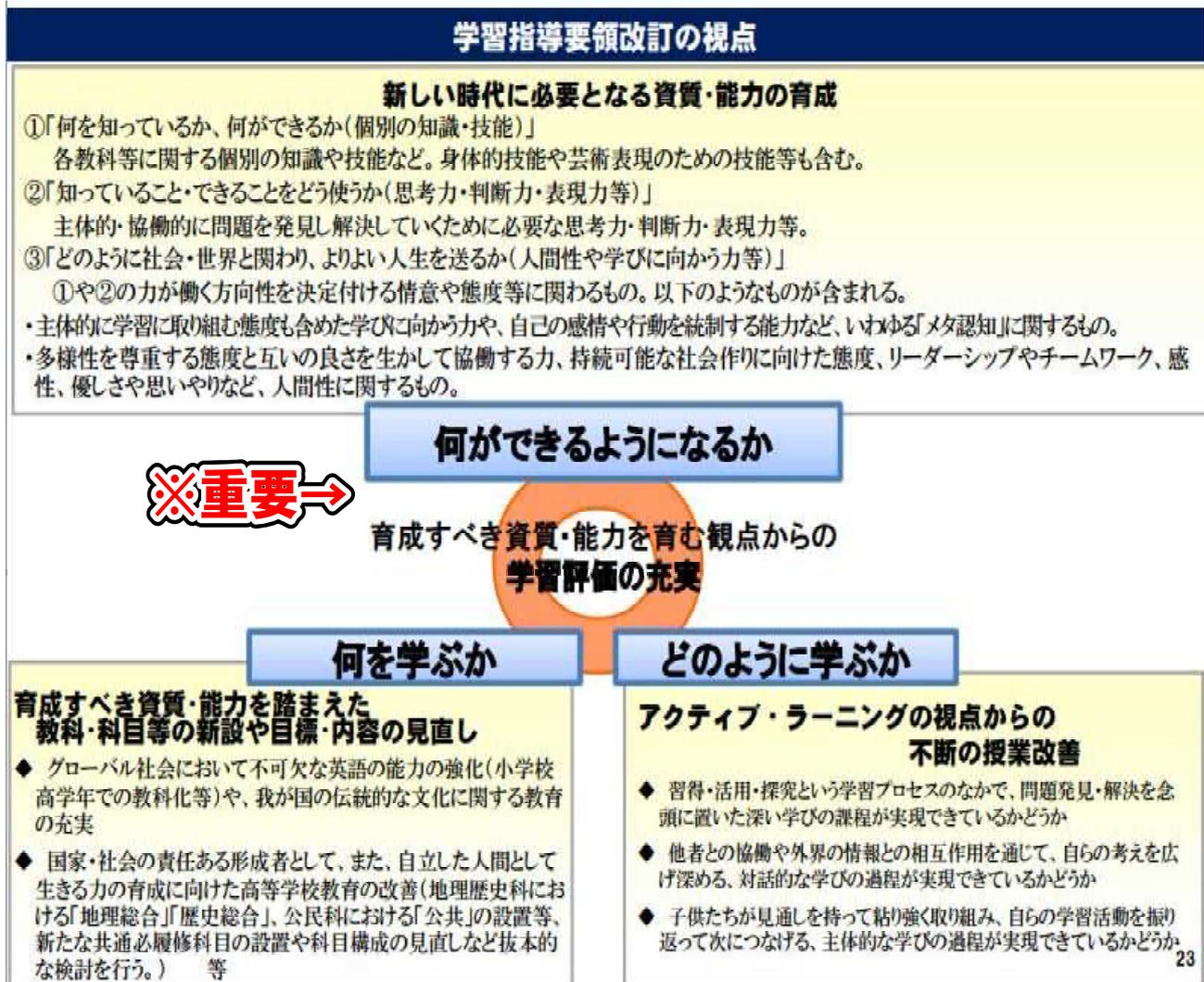
③学校教育に対する保護者の意識調査(朝日新聞・ベネッセ教育研究開発センター)

- | | | |
|--------------|-------|-----------------------------|
| ■課題を発見する力 | 86.2% | } 実社会で活用できる力
に対する期待が大きい! |
| ■論理的に考える力 | 84.1% | |
| ■物事を多面的に考える力 | 87.9% | |
| ■主体的に行動する力 | 88.8% | |
| ■受験に役立つ学力 | 67.4% | |

■学校は「教科に関する知識」と「社会で活用できる力」のどちらを重視すべきか?

- *教科に関する知識・・・30.2%
- *社会で活用できる力・・・66.7%

④学習指導要領改訂の視点



⑤アクティブラーニング (大臣諮問H26.11.20)

■課題の発見と解決に向けての主体的・協働的に学ぶ学習

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」

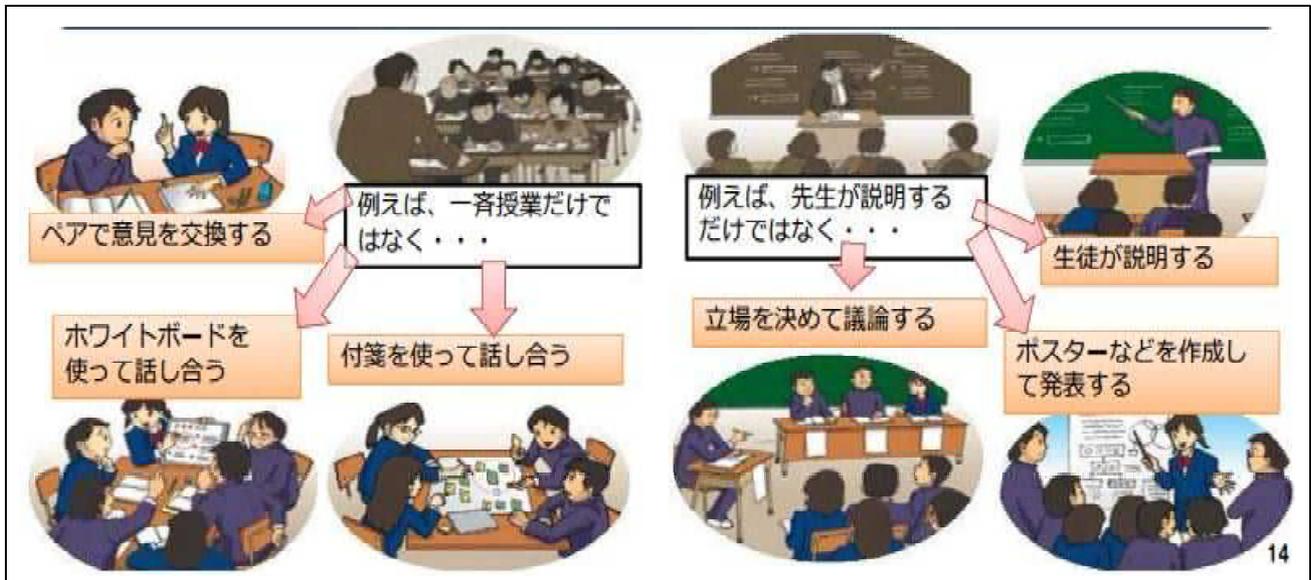
■アクティブ・・・身体より頭の中の活動(頭の中を活性化・フル回転させる)

*学習者が真剣に頭をフルに動かしながら学習に向かうこと!

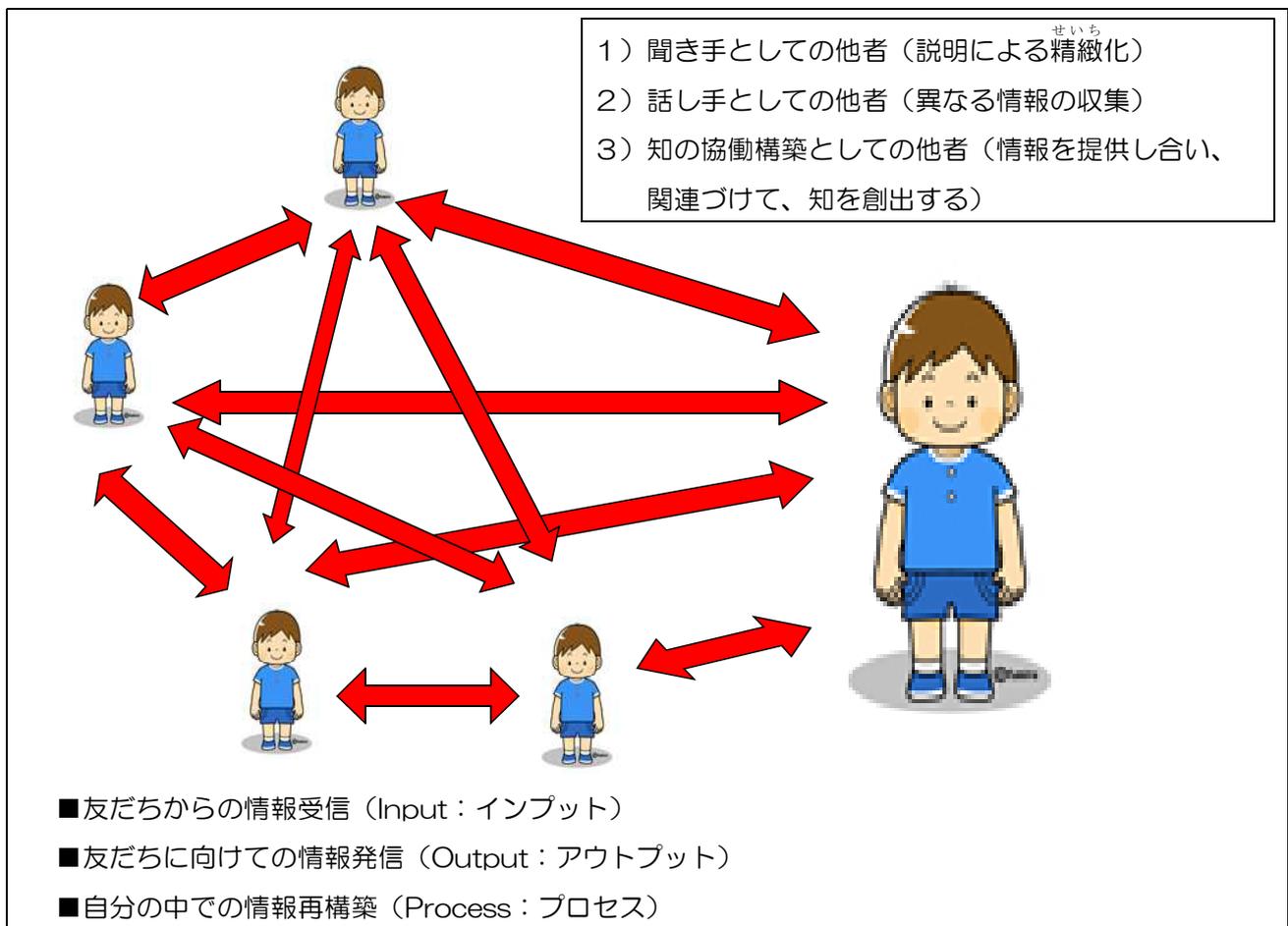
⑥アクティブラーニングの充実

- 知識の習得のみならず、思考力・判断力・表現力等や、主体性を持って多様な人々と協働する態度を養う。
- 子どもが学習の見直しを立て、主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組み、学習したことを振り返る活動が重要

(例)「言語活動」を通じた授業改善



⑦インタラクション (Interaction : 相互作用、言葉のやりとり、人と触れ合い) の充実



⑧アクティブラーニングの視点

- 1) プロセス・・・習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- 2) 対話・・・他者との協働や外界の情報との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- 3) リフレクション・・・子ども達が見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返り（影響・反映） 次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか

■余談・・・先生の話聞く時と友だちの話聞く時の違い

*先生の話の場合・・・生徒は先生の話を理解しようとして聞く

*友だちの話の場合・・・友だちとは考えや答えを一緒に作りだそうとしながら聞く

■アクティブラーニングを取り入れるが、これだけに走らない、偏らないことが大切。

*これまでの取り組みを大切にしつつ、バランス、多様性を保つ

*子どもの変容と授業の事実で考える。

(3) 中田康広 先生のお話

■秋田の先生はどの先生も熱心だと思います。

■生徒と先生より、生徒と生徒のやり取りで、課題やめあての設定等を行うことが大切。

■アクティブラーニングについては「頭をフル回転する」ということがしっくりきた。

■これからも「子どものとのやり取りを大切にしたい授業」を展開したい。

(4) 矢田部 瑞穂 先生のお話

■子どもの「こうやってみたい」という気持ちを受け入れる力が教師には必要では…。

■授業は「生もの」なので、教師の柔軟性が最も大切だと思います。

■秋田県の授業はみんな似ているので、どこに行っても同じことをしている

→ 教師のクリエイティブ（創造性）が秋田の強みでは…。

(5) 阿部 昇 先生のお話

■秋田県にあるどの学校でもレッスンスターディー（授業研究）が行われているのが強み。

■レッスンスターディー（授業研究）→秋田県の協同実践として、子どもたちの声から課題を見つけ、めあてを設定し、見通しを立て、自学習や学び合い、そして振り返りという指導過程ができている・・・秋田県がB問題に強いのはここである。

■話し合いができる雰囲気がある。

■授業のゴールを大切にしている。

*評価については特に子どもの変容を具体的に記載している。

例) ~したらA、~したらBという具合

■秋田県の教育そのものが「アクティブラーニング」であることに自信を持った。

■「学び合いは、創造する切り札である」ことを常に意識したい。